



# 兵庫あおのだより

独立行政法人 国立病院機構 兵庫あおの病院

秋季号 (第77号)

平成27年10月

〒675-1327 小野市市場町926-453  
TEL 0794-62-5533



【青野原病院の風景】 撮影者 庶務係長 永井 敦雄

新築により病院が新しくなり、病院名称も「青野原病院」から「あおの病院」に変わり、職員一同、気持ちも新たに頑張っています。  
これから、どのように変わっていくのか楽しみにしながら写真を撮りました。

移転について	院長 栗栖 茂	2
「兵庫あおの病院」竣工記念式典開催		3
新病院の開院にあたって ～療育指導室の抱負～	主任児童指導員 佐村 知哉	3
ふれあいの集い行事 ～USJを迎えて～	療育指導室	4
第41回日本重症心身障害学会学術集会に参加して	西3病棟 看護師 藤井 やよい	5
	東2病棟 看護師 藤原 健一	7
外来診察・検査担当表		8



## 移転について

院長 くりす しげる 栗栖 茂

国立病院機構兵庫あおの病院はこの 8 月 30 日につつがなく移転を完了し、新たな歴史をスタートしました。移転に際しては大学、消防、警察、国立病院機構諸病院、国立循環器病研究センター他の諸機関に大変お世話になり、また多数のボランティアの方々にお力をお貸し頂きましたことに対しまして職員一同心からお礼申し上げます。

旧病院は大東亜戦争の頃、青野原戦車聯隊付属の傷痍軍人療養施設として発足し、戦後は厚労省に移管されて結核療養所として、昭和 44 年からは重症心身障害児（者）医療専門施設として青野ヶ原台地の地で 80 年ほどの歴史を積み重ねてきましたが、病院としての立地の不便さ、建物設備の老朽化などの問題からこの度移転の運びとなった次第です。

今回の移転については、危惧される問題がいくつかありました。一昨年の台風による粟田橋の通行止めによって走行ルートが遠回りかつ複雑化したこと、当初は春に予定していた移転時期が震災の影響によって夏になったことによる熱中症の心配、159 名もの入所者の方を 1 日で移送する困難さなど心配される点は多々あったのですが、職員一同一丸となって綿密な移転計画を立案し、数度のリハーサルを繰り返したこと、先にも述べました通り諸機関、ボランティア諸氏の多大なるお力添えを賜わることができたことによって、まさに案ずるより産むがやす

しの診通り、計画と数分の誤差も無く、事故も無く、きわめてスムーズに移転作業を完遂することができました。

新しい病院は、敷地こそ旧病院より狭くなりましたが、病棟は旧病院より広々としたスペースで最新の設備を有しており、入所、入院なさっておられる方々には以前よりきっと快適な療養生活を送って頂けるようになったことと思います。新病院では、長期入所者の方々へのサービス内容の一層の向上と共に、旧病院時代から当院が率先して進めてきた重心部門の在宅支援を一層充実すること、一般診療に関しても、お向かいの北播磨総合医療センターをはじめとする地域諸医療機関様との病病連携・病診連携を一層強化し、地域に貢献できる医療を全病院一丸となって一生懸命進めて参りたいと思います。今後とも国立病院機構兵庫あおの病院に対して一層のご支援ご指導をお願い申し上げる次第です。



## 「兵庫あおの病院」竣工記念式典開催

平成26年2月に着工し、建設工事を進めてまいりました「兵庫あおの病院」が平成27年6月17日に竣工し、同年7月21日に竣工記念式典を開催いたしました。

小野市長、加東市小野市医師会長、関連大学教授の皆さま等々、130名を超える方々にご列席いただき、新病院のご披露をさせていただきました。

建物は完成したものの、重症心身障害児（者）159名の移送を伴う同年8月30日の病院移転、加えて新病院開院と同時の電子カルテ導入、医療法の開設許可申請等々と、開院に向けて準備すべきことは山積しておりましたが、ご列席いただいた方々の力強い励ましと、暖かい

お祝辞をいただき、職員一同心を新たにして新病院開院に向けての事業に取り組むことができました。



幸い特段の支障なく、新病院への移転・電子カルテの導入を終え、従前にも増して地域の皆さまのお役に立てるよう、院長以下一丸となって努力してまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

## 新病院の開院にあたって ～療育指導室の抱負～

主任児童指導員 さむら ともや 佐村 知哉

新病院になり、1ヶ月が経過致しました。

新病院への移転という大きな事業を、病院職員全員で成功に導くことができ、またその一員・組織として携わることができ非常に光栄に感じております。

皆様、本当にお疲れ様でした。

さて療育指導室は、旧病院と変わらず、利用者及び利用者家族への療育支援に努

めてまいりますが、様々な運用面の確立に追われているのが現状です。

特に療育活動（個別・グループ・集団等）・行事については、各病棟ダイルム・各病室・療育訓練室1、2での実施が可能であり、旧病院と比較すると、各段に広いスペースをご提供頂いています。

そのため、スノーズレン室・プール室も含め、利用者への児童発達・生涯発達

の視点を重要視し、個々の発達年齢に即した療育活動支援が可能となっています。

現在、ようやくスヌーズレン室が完成致しましたので、近日、職員の皆様方にご体験して頂ける時間を調整させて頂きたいと考えています。

また当院は、巡回相談、通所事業、短期入所事業、長期入院（障害児入所支援・療養介護事業）と、年齢に切れ間のない一体的な福祉・医療支援が出来る病院です。

9月だけでも、通所事業・短期入所事業・長期入院の新希望者が、電話連絡・飛びこみを含めて、約30件ございました。それほど、当院に期待を寄せている方が多いのが現状です。

病院方針においても、「在宅支援」の充実化が挙げられておりますので、チーム医療をベースにして、利用者及び利用者家族へのより良い支援が出来るよう心掛

けてまいりたいと考えております。

なお福祉制度（児童福祉法・障害者総合支援法）に関しては、年々、在宅支援事業への重点化にシフトチェンジされており、長期の入院（入所）に関しては、重症心身障害児（者）には経過措置が、平成29年度末まで継続されるものの、各病院での運営・運用が非常に厳しくなっているのが現状です。

その中で療育指導室は、福祉制度の動向を見据え、また病院に多面的な情報提供をさせて頂き、その運用をマネジメントすることで、安定した運営のもと、利用者・利用者家族に対して、熱い気持ちで療育的環境を調整できるよう取り組んでまいります。

これからも、各職種の方々と連携を図り、病院理念に基づいた支援が出来るよう尽力致しますので、何卒、よろしくお願い致します。

## ふれあいの集い行事 ～USJを迎えて～

療育指導室

新病院が開院となり、初めての行事開催という事で、療育指導室一同に気合いが入っていたのは間違いないですが、10月16日（金）のふれあいの集い行事にUSJをお迎えすることが出来ました。

公演者の調整の折りには、まさか、「あのUSJが・・・」と思いましたが、当部署の担当者の熱意が伝わったのか、もしくはタイミングが良かったとか、来院して頂くことが決定した時は、「これは夢



なのでは・・・」と感じました。

しかも、今回、USJの担当者である田村さんのご配慮で、原則、訪問される折り

には、1公演・1グリーティングの実施で決まっているところを、なんと1公演と各重病棟のグリーティングを実施頂くことになりました。

さて当日の朝です。

少し緊張をしておりましたが、来院された14名の方全員のオーラが全く違い、更に緊張・・・、しかし来院された皆さんと、事前の打ち合わせ等で気軽にお話しする事ができ、プロフェッショナルな調整に感動致しました。

当日のスケジュールは、午前11時から東2病棟のグリーティング、午後12時30分から西2病棟・西3病棟のグリーティング、午後15時から東3病棟のグリーティング、午後16時30分から東3病棟の療育訓練室での公演でした。

USJの皆様は、現地で開催されているパレードや舞台での状況と同様の雰囲気を実施頂き、利用者様にとって夢のような

一日を過ごして頂いたのではないかと感じています。

また、病院の職員・ご家族等も多数ご参加頂く事で、雰囲気も盛り上がり、大盛況で終えることが出来ました。本当にありがとうございました。

今後も利用者様にとって、高木憲次先生が提唱された‘療育’の概念である「治療をして、教育を受け、職業を授ける」の考えのもと、利用者様に「人生の楽しみ」が提供できるよう、療育指導室は療育活動・行事活動に取り組んでまいりたいと考えています。



## 第41回日本重症心身障害学会学術集会に参加して

西3病棟 看護師 <sup>ふじい</sup> 藤井 やよい

今年の日本重症心身障害学会は、一橋大学一橋講堂にて開催されました。9/18、19の2日にわたって先生方の講演、ポスター展示及び発表があり、今回の参加が初めての学会で緊張と期待をもって参加しました。

シンポジウム1では、重症心身障害への医療的支援の現在・過去・未来というテーマのもと、浅野一恵先生は、誤嚥し

にくい食形態を工夫し食事が好きな患児ができるだけ長く安全に経口摂取ができるようにと取り組まれており、とても感銘を受けました。

また、小児外科の寺倉先生は、20年前、重症心身障害者に対して積極的に外科的処置がされてこなかった時代を経て、先陣をきって胃ろう造設や腹腔鏡下での噴門形成術、喉頭気管分離術を数多くこなされてきました。様々な困難のある重症心身障害児(者)にとって早期の外科的ア

アプローチにより、その後のQOLの維持に大きく影響をもたらすとおっしゃられていました。現在、自身の受持ち患児も他施設の先生方のご協力の元、喉頭気管分離術の検討を進めており、この外科的処置にて患児のQOL向上につながると信じ期待しながら、聴講させていただきました。現状に満足するのではなく、長期的な目でみて、患児のQOLを維持出来るように、他職種や家族と共に介入し続ける姿勢がとても大切であると感じました。

さらに、同行していただいた橘副師長さんのおかげで田村先生のランチョンセミナーにも参加させて頂き、お弁当を頂きながら摂食嚥下に関する事を学ばせて頂きました。食事をしながらの聴講で緊張感も取れ楽しい時間を過ごす事ができました。

ポスター発表では、発表時間6分以内、質疑応答3分で時間厳守のもと行われました。初めての発表で、会場の雰囲気圧倒されました。4つの会場に分かれ、テーマごとに6名づつ発表して行きました。

会場には、多くの聴講者がほぼ満員で、自分の発表の時は、ゆっくり大きな声で発表するのが精いっぱいでした。

質問タイムでは、適切に返答できるかハラハラしながら無事に発表することができました。発表に対する積極的な意見交換がかわされており学びが深まる発表でした。

研究発表において、適切な研究目的の設定、それに対する実施内容検討、結果、考察を経て、簡潔な結論を導く多数の方法を見て、聞くことができとてもよい学

びになりました。



他の方の発表を通して、情報の正確性や、必要な情報の量、一連の流れがしっかりしていたり、発表の仕方から受けてが理解しやすいようにと工夫がなされていました。発表中は内容を頭に入れ、聞き取りやすいスピードで、表情よく発表することがよい発表につながると学びました。また、普段自分が疑問や問題と感じているような論題を他職種を含む他者の見解より学び、今後の知識・技術の向上につなげることができる場となりました。

今回病棟の代表として事例検討、発表を通してとても良い経験をさせて頂くことができました。ご協力してくださった皆さんに感謝申し上げます。



東2病棟 看護師 藤原 健一

9月18日(金)、19日(土)に東京都千代田区の一橋大学、一橋講堂で開催された第41回日本重症心身障害学会学術集会に参加してきました。去年は京都での開催ということで土地勘があり2日間、通うことができました。

しかし今回は東京なので公共交通機関を利用しました。当たり前のことなのですが、私にとって移動は自動車がほとんどで、公共交通機関はまるで分らない世界なのでした。東京も例外でなく自動車では何回か都内を回ったことがあるのですが、今回は都内どころか新幹線の乗り方から良く分からず姫路駅から同行者の師長さんと藪元さんに連れて行ってもらうことになりました。

発表当日の18日、東京はあいにくの雨でしたが、会場近くの駅までは傘の必要もなくスムーズに連れて行ってもらえました。会場周辺はオフィスビルが多く分かりにくかったのですが、運よく看護部長さんに出会って遅れることなく会場入りすることができました。

発表まで他のポスターを見る余裕があり、15時からの西3病棟の発表も聞くことができました。

私の発表は16時からで、1日目のプログラムの最終だったので人は少ないかも、と思ったりしましたが会場に入れなほどの人で、重症心身障害看護に熱心な人が多いことが感じられました。直前に同じおむつの当て方の発表があり、内容もオムツフィッターという共通点があったので、より詳しい質問があり、その説明

ができたと思います。

あらかじめ座長より、聞いて欲しい事や希望があるか聞かれたので、より良いおむつの当て方があれば尋ねたいと伝えると、奈良医療センターの発表者から同調する意見が出ました。最後におむつの当て方の名称“あおのロール”は特許ですか？と座長が笑いを取って下さり、無事発表を終えることができました。

ポスター撤収の時間指定があり、急いで撤収しようとしたのですが、発表終了後から私のポスターの前に人だかりが…。他の病院でもおむつ介助には関心が高いことを改めて感じることができました。

ちょっと驚いて固まっていたのですが、看護部長さんに促されて、持参したおむつで時間の許すまでミニおむつの当て方講習会をしました。前回のおむつの当て方の発表でも出た、どうやってスタッフに当て方の変更を浸透させていくのか？という質問も多く、実施前にワーキンググループが自信を持って言えるまで準備し、繰り返し啓発していくことを伝えました。

今回の発表ではたくさんの参加者から質問が出ました。発表までに指導や応援を受ける事で、改めて今回の取り組みを振り返ることができたので、うまく答えることができたと思います。このことで他病院との交流ができ、より世界が広がるのかな、と感ずることができました。そう感じたとたんに、他施設の方から去年の用手微振動の発表を病院で取り入れて良かったという結果を会場で伝えていただきましたし、得るものの多かった発表になりました。

# 兵庫あおの病院 診察・検査担当表

## 診 療 担 当 表

平成27年11月1日～

診療科		月	火	水	木	金	土	日
内科	午前	診察1	八幡	中原		浅香		
		診察2	義富	石田(純)	松山	中原	石田(純)	
		診察3	寺尾	中山*	義富*	義富*	中山*	
	午後	義富*	中山*	義富*	義富*			
外科	診察5	植田	平井 <sub>二</sub>	栗栖*	平井 <sub>二</sub>	栗栖*		
リハビリテーション科	診察5	植田	平井 <sub>二</sub>	栗栖	平井 <sub>二</sub>	栗栖		
整形外科	診察6		平井和 (不定期)	平井和 (不定期)			西村 (毎週) 藤岡 (第2・4週)	山本 <sup>◇</sup> (不定期)
緩和ケア科	診察5		梅木*					
小児科	入院 患者 様 対 象	水野 藤村	水野	水野 運崎 浅井(隔週)	山下 瑞木 (交替制)	幸道 新田 (交替制)		
小児外科					久野 (第2・4週)			
皮膚科			荒川 (毎月1回)	加藤 (毎月1回) 益田 (毎月1回)		竹中 (毎月第4週)		
耳鼻いんこう科				吉本				
歯科		古土井				明石		
専門 外来	心身症外来					郷間 <sup>◇</sup>		
	呼吸器・血管外科		平井 <sub>二</sub> *		平井 <sub>二</sub> *			
	大腸外来				梅木*			
	胆膵・胃外来			栗栖*		栗栖*		

診療受付は平日の午前8:30～午前11:30です。

※印の外来診療は予約診療です。予約を取り、予約票をお持ち下さい。ただし、初診・急病の場合は予約なしでも、診察を行っています。

◇印の外来診療は予約患者様のみの診察となります。(初診の方の診察は行っていません)

診療担当医が都合により変更となる場合がありますが、ご了承下さい。

患者様の状態により、診察の順番が前後する場合がありますがご了承下さい。

整形外科診察日には、リハビリテーション科の診察は休診となりますが、リハビリテーション科患者様の診察も行います。

## 検 査 担 当 表

胃カメラ(午前)	栗栖	梅木		小坂	梅木
大腸ファイバー(午後)				小坂	
胆膵(ERCP)(午後)			栗栖		
気管支ファイバー(午後)					義富
胃透視・注腸透視(午前)	診療放射線技師				
腹部エコー(午前)	臨床検査技師				
頸部エコー(午前)	臨床検査技師				
心エコー(午前9:00～)	検査科	検査科	・石田(純) ・大阪医療 センター医 師(2ヶ月 に1回)	・大阪医療 センター医 師(2ヶ月 に1回)	検査科

※検査はすべて予約診療です。

兵庫あおの病院 電話 0794-62-5533